

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
事前事後指導 Pre / Post Guidance and Teaching Practice		1年	後期	別途、時間割表参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (教職課程必修 (中学校教諭二種(外国語)))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
教職関連科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職関連科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
松崎勇人	本館2階	月曜の3から4時限、 火曜の3から5時限		授業中に指示します
授業の概要 教育実習の内容についての理解を深め、実践力を培うと共に、教師の仕事について理解を深め、生徒理解を深める。教育実習の準備としては、教職に関する知識・技能等の習得および生徒の理解を総合的に関連付けて、実習後は、教師としての研究課題について実践を踏まえて検討する。				
授業の到達目標 ①教育実習の際の学習指導をできるようにすると同時に、自己の課題を見出すことができるようにする。 ②教育実習の際の生徒指導をできるようにすると同時に、自己の課題を見出すことができるようにする。 ③教育実習を反省して、自己の課題を見つけられるようにする。				
授業の方法 テキストを購読する。課題について討論を行う。				
学習の成果 この授業を履修すると、あなたは ①教育実習の準備 (学習指導と生徒指導の準備) ができる。 ②教育実習を反省して課題を見つけることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス			
第2回目	教育実習の意義			
第3回目	教育実習の形態・方法・内容			
第4回目	生徒の理解と生徒指導			
第5回目	生徒の理解と学習指導			
第6回目	教育経営			

第7回目	教育実習上の留意点	
第8回目	道徳の指導	
第9回目	特別活動の指導	
第10回目	教育計画の作成とその理解	
第11回目	学習指導案の作成とその評価	
第12回目	中学英語教育の課題	
第13回目	教育実習直前指導	
第14回目	実習の感想の発表	
第15回目	実習の反省と今後の研究課題	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	50%	評価の基準 最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられること等である。
レポート	50%	「実習に臨んで」と「実習を終えて」のレポートを提出する。最高水準としては、課題とするテーマについて深く考えた上で論を構成すること、実習を事実に基づき反省し、課題を見出すことなどを評価基準とする。
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
『教育実習の手引き』佐野短期大学		
履修上の心得・ルール		
教師になるという強い目的意識を持って講義に臨むこと。		